

特集

トップ
インタビュー

豊かな自然が宝物 みんなで紡ぐ結いのまち



TOP
Interview

大崎町長 **東 靖弘**

広大なシラス台地が広がる大隅半島に位置し、南部は、豊かな水産物をもたらす志布志湾に面し、北部にかけては、多くの農畜産物を育む大地が広がっている大崎町。「健やかで安心して暮らせる元気なまちづくり」を目標に掲げ取り組んでいる同町だが、どのように取り組んでおられるのだろうか。東靖弘町長に、健康に暮らせるまちづくりへのビジョンやご自身の健康法等について、お話を伺った。

健やかで、安心して暮らせるまちづくりを目指す

— 大崎町における健康に暮らせるまちづくりへのビジョンについてお聞かせください

本町の総合計画では、「豊かな自然が宝物 みんなで紡ぐ結いのまち」を基本理念とし、保健福祉分野の基本目標を「健やかで安心して暮らせる元気なまちづくり」とし、まちづくりに取り組んでいます。

日本人の平均寿命は延びてきていますが、心身ともに自立し健康的に生活できる期間、いわゆる健康寿命を延ばすことが大事です。そのために若い頃から各人が病気の発症予防の取り組みや健康診断等受けていただき生活習慣病等の早期発見に取り組み、生活の質の向上による健康寿命の延伸を図ることが重要と考えています。

また、妊娠期から乳幼児期までの切れ目のない支援により、誰もが安心して子どもを産み育てることができ、幸せや楽しさを実感できる環境を整備しています。具体的には、保健福祉課内に「子育て世代包括支援センター」を設置し、子育ての悩みに対応するなど、母子保健の取り組みを強化しています。共生社会の実現に向け、誰もが支えあいがら生き生きと暮らせるまちづくりに取り組んでいます。

高齢者が安心して生活できる仕組みづくりとしては、地域包括ケアの取り組みを推進するとともに、こころばい体操をはじめとする介護予防や見守りの強

化に向けてふれあいきいきサロンの充実に努めています。



ころばん体操の様子

このように、妊娠期から高齢期まで切れ目ない健康づくり施策を充実することで誰もが生涯を通じた健康づくりに取り組みながら、健やかで、安心して暮らせるまちづくりを目指していきます。

―力を入れておられる取り組みや、特色のある取り組みについてお聞かせください

令和元年度の特定健診の受診率は46.2%で、年々上昇してきていますが、国が定める市町村の国保の受診率目標値60%には程遠い状況です。また、若年になるほど受診率は低いところですが、令和2年度の特定健診受診率は、新型

コロナウイルス感染症の影響を受け、当初の日程を半年先送りするなど変更したこともあり、令和元年度より11・2ポイント落ち35%程度になると見込んでいます。そこで令和3年度は、国保連合会の共同事業である特定健診受診率向上対策事業に取り組みます。AIを活用し、ナッジ理論というものによる個々の特性に応じた受診勧奨を行うことで、受診率の向上に努めていきたいと思っています。併せて、生活習慣病でかかりつけ医を受診している方には情報提供のお願いをしているところですが、本町の国保被保険者の約6割はかかりつけ医が町外であることから、今後は、町内はもとより町外の医療機関にも情報提供のご協力をお願いし、実態把握に努めながら受診率向上に力を入れていきたいと思っています。

大崎町の第2期データヘルス計画から、本町の一人あたり医療費は県よりは低いものの、国や同規模市町村の中では高い傾向にあります。特に慢性腎不全（透析）に係る費用は県・国・同規模市町村より高く、新規透析患者数は県の2.5倍多い現状です。平成25年度から平成27年度は全国と同規模市町村131保険者の中でワースト1位でした。そのような中で、平成26年度から曾於地区の2市1町、曾於医師会

とでCKD予防連携システムという慢性腎臓病に着目した取り組みを行っています。健診結果やレセプト情報等から軽度のCKDが疑われる方や腎臓専門医への紹介が必要と思われる方だけでなく、かかりつけ医への受診を勧め、場合によってはかかりつけ医から腎臓専門医への紹介が行われ、その後結果がかかりつけ医や市町村に報告される仕組みです。曾於地区には腎臓専門医がいないため、月1回鹿児島大学病院から曾於医師会病院へ専門医を派遣していたが、腎専門外来が開設されています。早めの受診や生活改善の支援が行われ、CKDの予防、人工透析新規導入者の減少や遅延、ひいては医療費の適正化に努めていきます。

健康は自ら作る、そして自らを守るを常に意識することが大切

―町長ご自身の健康について、普段から心がけていらっしゃる点がありますらお聞かせください

私は体を動かすことが好きで、40代はじめ頃から早朝ウォーキングを続けています。朝は4時20分に起床、多めの水を飲み、体がシャキッとなったところから出発。1万歩を目指し、自分の健康

は自分で作る、そして守ることを常に意識して春夏秋冬続けています。自然豊かな地域に住んでおり、四季の移ろいを肌を感じながら楽しく歩き始め、かれこれ30年が過ぎました。役場職員として勤務していた頃から、町長の仕事をしようになつてからも、物事を考える上で早朝の2時間は私にはとても大切な時間となつています。また、町制80周年でふれあいの里公園に巡回ラジオ体操に来てもらったのをきっかけに「みんなの体操」やラジオ体操の第1から第2までおよそ15分間、掛け声を掛けながら夫婦で実践し、7年が過ぎました。今では、ウォーキングから体操までが朝の生活習慣となっています。

脚力を鍛え、身体のバランス感覚を保持し、正しい姿勢で歩くことを目標にしています。ウォーキングを始めるとその日の調子の良し悪しがつかめるので、健全な日常の過ごし方改善にも繋がります。おかげ様で通常の動作など支障なくこなすことができたり、継続することの大切さを実感しています。

コロナ禍が長く続き、外食や飲酒の機会も減り、家庭での規則正しい食生活や適度な運動を通じ、心身ともに「健康」が維持できているように思います。多種多様な行政施策を運営するためには、「集中力」や「行動力」・「推進力」



リハビリ調教を受ける競走馬(大崎海岸)

が不可欠であり、健康であることが町民の皆様の期待に応える源であるように思います。
 毎年人間ドックを受けていますが、これからも「健診」や「検診」を心がける住民一人ひとりの福祉の増進と、更なる町政発展に努めてまいりたいと思います。

—最後に何か大崎町のPRがございましたらお聞かせください

大崎町は、温暖な気候と溢れる湧水で育むマンゴーやパッションフルーツ、さつま芋、うなぎ、牛肉・鶏肉など、多くの特産品に恵まれた「食材の宝庫の町」で、その生産量も国内最大級ながら、高い品質を求め常に挑戦し続けています。

一方、ソフトボールや剣道、バレーボール、長距離走など様々なスポーツも盛んで、特にプロ野球の世界では中日の福留選手、広島の前山選手、西武の赤田コーチ、榎田選手、浜屋選手なども輩出しています。

また、7kmにおよぶ白砂青松の海岸線を有し、ウミガメが産卵のために上陸する自然豊かな町ですが、競走馬の故郷としても有名であり、あの「トウカイトイオー」をはじめ数々の競走馬がリハビリ調教に訪れており、海岸線が颯爽と走る競走馬の姿はまさに絵になる風景です。なお、2023年に鹿児島県で開催される特別国民体育大会では、この砂浜を活用したコートでビーチバレーの試合も行われることになっています。

その他にも、セグウェイ体験もできる「くにの松原キャンプ場」や、国の指定史跡で5世紀半ば頃に築かれた前方後



セグウェイ体験(くにの松原)

円墳の「横瀬古墳」、参加者が自慢のかぶと虫を持参し戦わせる「かぶと虫相撲大会」など、見所も満載です。

大隅半島は近年まで陸の孤島と言われてきましたが、高速道路の開通と町内に2箇所あるインターチェンジによる利便性の向上で、鹿児島空港から車で約1時間、鹿児島市内から約1時間30分での往来が可能となりました。これにより旧県立有明高校跡地に整備された「ジャパンアスリートレーニングセンター(鹿児島県が整備したアジアトップレベルの陸上トレニング施設)」や、本町がくにの松原に整備した「クロスカントリーコー

ス」等を活用した陸上競技合宿者も格段に増加しており、私の目指す施策の一つである「陸上競技の聖地実現プロジェクト」が着実に進んできております。



巨大カブトムシのモニュメント(道の駅「くにの松原おおさき」)